

# 雲仙プロジェクト通信 9号

平成23年12月17日(土) ~ 18(日)

## 1. さて、いよいよお仕事の始まりです!!!

3月19日、恐らく、いや間違いなく、若いメンバーの方々は、年度末納期に追われ、必死でパソコンと闘っているであろう、まさにそのような日、おじさん3人組(波木事務局長、木寺さん、矢ヶ部)は、雲仙の魅力を満喫すべく、チームギアの松本さんが待つ「竹添ハウス」へ、のんびりと向かっているのです。・・・と、書き綴ったのが、今年の3月19日から20日の雲仙プロジェクト準備会に参加したプロジェクト通信の書き出しでした。

それからはや10ヶ月。平成23年6月17日の「瑞穂の巻」をスタートに、「雲仙の巻」「国見の巻」「吾妻の巻」「愛野の巻」そして「南串山の巻」と、興味を散々くすぐられ、どれもがおいしく、かつ、楽しかった6回の雲仙視察のたびも終わり、さあ、本領発揮のお仕事の時間となりました。今回は、竹添ハウスに缶詰?となり、2日間の「雲仙の千の物語 モニターセミナー企画会議」です。

今回の福岡からの参加者は、針貝会長、岑さん、山下さん、金尾さん、私(矢ヶ部)、プラス、後便で、波木事務局長の6名です。途中、定番の「長崎ちゃんぽん」を食べ、一路竹添ハウスへ。

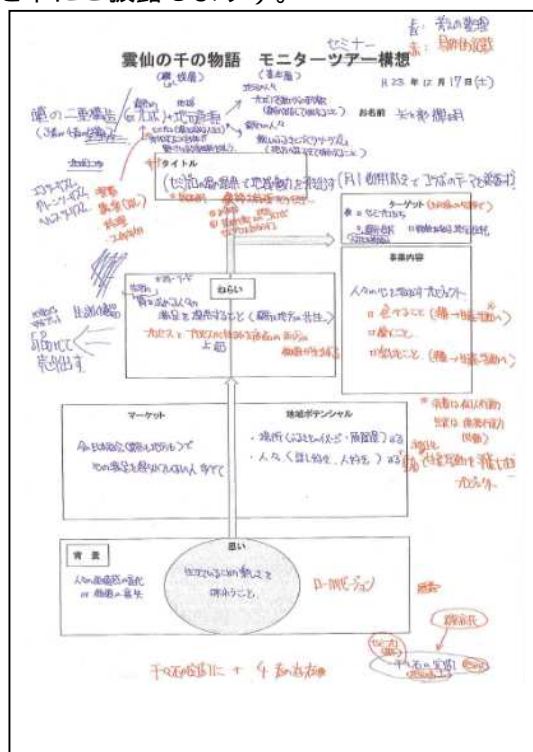
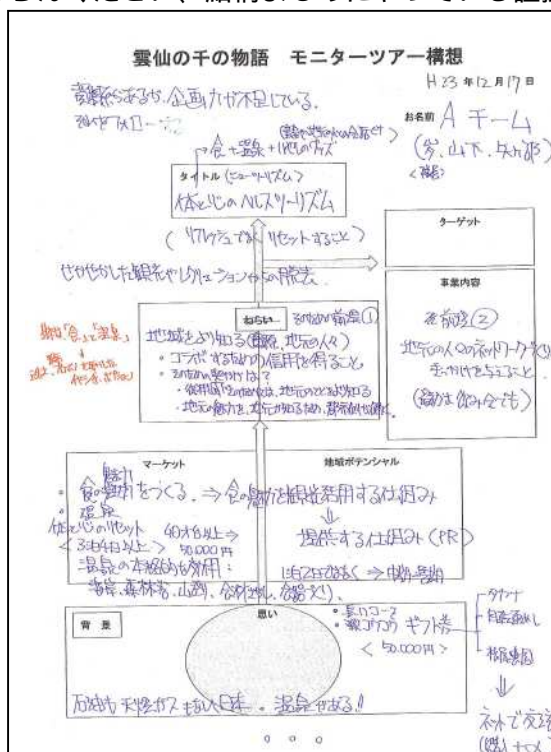
竹添ハウスには、松本さんご夫婦、秋元さん、それと竹蔵+1キャソに迎えられ、さっそく、お仕事お仕事!!! 松本さんより、今回の進行説明があり、また、これまでの経緯を振り返るための資料説明がありましたが、体験・経験・感動してきたいくつもの現場を、しっかりと思い出しました。



初日17日の商品企画会議風景です

まずは、ひとりづつ「商品企画」のアイデアだし。そのあとは2班に分れ、岑・山下・矢ヶ部チームは、足元班として現状からの考察を、針貝会長・金尾・秋山チームは、未来班として50年後の雲仙・島原を見通した考察を行いました。

ごらんください、結構まじめにやっている証拠?を下にご披露します)。



さて、初日の企画会議で出てきた成果は、まず、次の2つのプロジェクトです。

**「生産活動を消費するプロジェクト」**  
**「50年後に島原共和国を創ろうプロジェクト」**

「生産活動を消費するプロジェクト」というのは、こんなことを考えた結果です。こんなこととは、本来、ほしいものを買うような消費活動は個人的な活動として捉えられ、一方の生産活動は共同で行う成果として捉えられるものであるものの本にあったのですが、エコリズムのように、単なる消費の活動ではないものに、お金を払ってでも参加するという「やりがい」「生きがい」を求める活動のなかには、今後、街づくりを支援する活動も、仕掛けや魅力が備わるのであれば、同じように都市の人々が参加料を払ってもやってみたいと思いのではと考えました(6行にわたる長文。すみません)。ここ、雲仙には、これまでの視察調査の成果として、多くの地元でがんばっておられる活動があり、そのすべてが、活動している方の魅力と、地域の資源の魅力、そして、雲仙という場の魅力が十分にあるものと思われました。あとは、いかに、その魅力を「地域づくり参加」という商品化するかという点にあると考えた次第で、これが、「生産活動を消費するプロジェクト」の言わんとしているところです。そして、この活動は、現在の状況を見ることから始まるものであると位置づけました。

その対極？にあるのが、「50年後に島原共和国を創ろうプロジェクト」です。針貝会長が提案されたこのアイデアは、エネルギー問題や人口問題を抱える将来の日本のあるべき姿のモデルとして、雲仙・島原をひとつの共和国とみなし、周囲と当然関連は持ちつつ、自給自足的な地域の50年後の地域モデルとして設定し、それにむけて雲仙の資源を最大限生かした取り組みを考えようというものです(と、おもいました。ずれていたら申し訳ありません)。

この現在と未来の2つの起点(スタート点)を考えることによって、地に足をしっかりつけた未来志向の取り組みができるということですが、なんと壮大なアイデアとなってしまったことか！！

2日目の18日には、強力な助っ人小松さんも参加され、さらに盛り上がった議論となりました。

さあ、今からが、大変なことになりそうなワクワクした予感があります。

さらに、この活動のキャッチフレーズも次のように決まりました。

いいね！ ♡ 雲仙 ♡ よんなんせ

都市から雲仙に来た人がふと声に出す『いいね！ 雲仙』と、雲仙の魅力を知り尽くしている地元の方が街の人によびかける『よんなんせ 雲仙』が、ひとつの言葉になったすばらしいキャッチフレーズだと思います。(このキャッチフレーズを生み出したことで、十分に満足した人も大勢いらっしゃる?)





